



近代陶磁器研究の先駆者 **塩田 力蔵** (1864~1946)

"近代日本の学界において忘 れられた二人の篤学者"として、 昭和28年(1953年)発行の福 島県立図書館報に紹介された 一人が、わが国における近代 陶磁器研究の先駆者として高 く評価された塩田力蔵です。

元治元年(1864年)9月8日、力蔵は城下若宮で 半農半商(製粉業)を営む、「扇屋 | 塩田喜介の次男と して出生。父の喜介は、"知らないことは扇屋の爺 様に聞け"といわれたほどの博識者でした。また、 兄の健蔵は万古焼の製造販売を手がけたと言われ、 この環境がのちに力蔵が傾注した陶窯研究に影響 をもたらしたといえます。

松岡小学校を卒業後、福島師範学校を経て、松 岡小学校訓導(教師)となり、のち首席訓導に昇進し ています。しかし、その私生活は年中一着の詰襟 の洋服を着て、瀬戸物いじりに没頭する毎日でした。

明治18年(1885年)、陶器研究の大志を立て上京。 のちに、美術学校長の岡倉天心に招請され、同校 に陶器講座を開設し、力蔵の研究は斯界の第一人 者として高い評価を得ることになります。

同35年(1902年)、日本美術院編集部主任兼日 本絵画協会副会長に就任。同42年(1909年)には 日本窯業協会の『日本近世窯業史』編纂に専心する ようになり、全く世間から隔絶した無頓着な日常 生活は人々から奇人視され、学者としての大成と は裏腹に生活は窮乏の一途をたどったといわれて います。

生活を顧みない献身的学究の結晶は、数多くの 名著として残されています。『明治工業史』をはじ め、『大日本百科事典』『陶器大辞典』等の陶器講座 執筆、特に『日本近世窯業史』は実に10年の歳月を 費やした大著です。また、未出版として『支那歴代 陶窯類纂』は、昭和10年代から死去直前までの研 究成果をまとめた、幻の大著作といわれています。

戦時中、甥の住む猪苗代町に疎開し、病苦と戦 いながら前述の大著に没頭。昭和21年(1946年) 2月3日、栄養失調のため寂しく世を去りました。 中央の美術誌『古美術』は追悼文を掲載し、「…清貧 に甘んずるという程の余力もなく、貧と病苦の中 に独身で自己の学術に邁進して行った翁の姿を、 誰が涙なしに偲ぶことが出来るであろうか。」と結 んでいます。





本松ふるさと人物史 本松市ウェブサイト

察署からのお知らせ

犯罪発生状況(令和5年1月~2月)

304F7011071717								
		二本松 地区	安達 地区	岩代 地区	東和地区	不明等	合計	前年 対比
侵入盗	空き巣							- 1
	出店荒し							
	その他	1					1	- 1
非	万引き	1(1)	7(6)				8(7)	6
非侵入	車上ねらい							- 1
盗	その他	2(2)	1				3(2)	
自	転車盗	2	2(1)				4(1)	4
器	物損壊							
住	居侵入							- 1
そ	の他	10(6)	2(1)			2(1)	14(8)	11
合	計	16(9)	12(8)			2(1)	30(18)	17
前	年対比	13	5	- 1	- 2	2	17	

※()は2月の発生件数



